

氏 名	内 田 治 仁
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 3060 号
学位授与の日付	平成18年3月24日
学位授与の要件	医学研究科内科系内科学（三）専攻 （学位規則第4条第1項該当）
学位論文題目	Practical Efficacy of Telmisartan for Decreasing Morning Home Blood Pressure and Pulse Wave Velocity in Patients with Mild-to-Moderate Hypertension （軽中等度高血圧患者における早朝家庭血圧と脈波伝播速度に対するテルミサルタンの臨床効果）
論文審査委員	教授 五味田 裕 教授 谷本 光音 助教授 小阪 淳

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

高血圧治療において、実地臨床的にガイドラインの推奨する降圧レベルを達成し維持することは難しい。最近心血管イベントと早朝高血圧が強い相関を示すことが言われており、このことから長時間作用型アンジオテンシン II タイプ1 受容体拮抗薬であるテルミサルタンが心血管死を抑制する可能性がある、という期待は高い。本研究では、早朝家庭血圧と脈波伝播速度に対するテルミサルタンの臨床効果について検討した。17 名の高血圧コントロール不良患者及び7名の高血圧未治療患者計24名に対して1日1回テルミサルタン40mgを3ヶ月間投与した。既投与されている薬剤は変更しなかったが、他のアンジオテンシン II タイプ1 受容体拮抗薬が既に投与されている場合にはそれをテルミサルタンに変更した。毎月の早朝家庭血圧と外来血圧、及びテルミサルタン投与前後で足首—上腕脈波伝播速度(baPWV)を測定した。テルミサルタン投与3ヵ月後には早朝家庭血圧、外来血圧、baPWVともに有意に低下した。他のアンジオテンシン II タイプ1 受容体拮抗薬が既に投与されている群とそうでない群とで層別解析を行ったが、群間で有意差はなかった。baPWVは外来血圧の低下度から予測される以上に低下していた。以上から、テルミサルタン40mg1日1回投与により軽中等度高血圧患者における早朝家庭血圧と脈波伝播速度は有意に改善された。またそのことが心血管死を抑制する効果をもたらす可能性が示唆された。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、軽中等高血圧患者における早朝家庭血圧と脈波伝播速度に対するテルミサルタンの臨床効果を検討したものである。具体的にはテルミサルタン40mg1日1回3ヶ月間を投与した患者で、早朝家庭血圧と外来血圧、および足首—上腕脈波伝播速度を測定しその相互関係から臨床応用を調べている。

その結果、早朝家庭血圧、外来血圧、および足首—上腕脈波伝播速度共に低下した。しかしながら 新規薬物群と既薬物群間の層別解析では差異はなかった。一方足首—上腕脈波伝播速度は、外来血圧低下度以上に低下した。これらのことから、テルミサルタン投与は、早朝家庭血圧、外来血圧、および足首—上腕脈波伝播速度共に低下させたことより、心血管死を抑制する効果をもたらす可能性を示唆した。

本研究は、今後のテルミサルタンの臨床応用の方向性を決める上で参考になるものと考えられる。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。

審 査 概 要:

審査の中では、論文中の数値的間違いが指摘され訂正することとして了解された。

また 血圧のグラフで変動が小さかったことについて質問があり、その理由についてコメントされ了解された。